

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県北会場>

科目 ⑩障がいのあるこどもの育成支援

- ◆ 障がいのある子どもの問題行動には、原因となるきっかけがあり、そこを改善しなければ問題行動はなくなる。肯定的な注目をたくさんすることで褒めることが増え、脳に良い刺激となり問題行動を減らすことに繋がっていくことを学んだ。どうしても毒語を使ったり、否定的な注目を先にしてしまったりするが、意識して肯定的な注目を多くできるように心掛けたい。自分の保育を振り返り気づきに繋がるよい研修となった。
- ◆ 私の勤めている職場では障がいのある児童はいませんが気になる子がいて、その子に対して怒ったり毒語を言ったりしていました。でも、毒語が子どもの脳を小さくすることを学び驚きました。今後は先生方と話し、褒めていきたいと思います。事例検討のとき、他の方の褒め方を聞くことができ参考になりました。また、講義を聞いた後、実際に褒めると、気になる行動が止まったと思うので続けてみようと思います。
- ◆ 良い行動をした時はきちんと褒めることが大切だということ、子どもはルールよりも信頼に従うということが分かった。また、褒めるということで脳の働きがよくなることも理解した。普段から肯定的な表現をすることに気を付けていきたい。注目には行動を変える力があり、子どもに自信を付けることが大切ということなのでやってみたい。
- ◆ 障がいのある子どもを支援するために児童クラブが何をすべきか理解できた。私たちができることは個々の子どもの特性を理解しながら他の職員と共通理解して取り組んでいくこと。子どもの悪い面にだけに目を向けることなく、できている面を見つけ褒めながら子どもの自信につなげていけるよう努めていきたい。グループワークで事例検討を行い、その子どもの困っているところを探りながら、できるだけ子どもの思いに寄り添って支援していくことの大切さを学ぶことができた。
- ◆ 子どもの行動の背景を推測したり、事例検討を実践してみたり、好ましくない行動が起これないように対策していきたいと思います。言い方、伝え方ひとつで否定語になったり毒語になったりしてしまうことが分かったので、簡潔に分かりやすく伝えてあげたいと思いました。私たちの対応ひとつで子どもたちも少しずつ変わってくれると思うので、実際に仕事に活かしていきたいです。大人の姿を見て育つので、小学校ともしっかり連携していきたいです。